



おいらせ町誕生 10 周年記念

# おいらせ町 10 年の足跡

平成 28 年 3 月 1 日、  
おいらせ町は  
誕生 10 周年を迎えます。



# おいらせ町誕生から 10 年 町民の融和とさらなる飛躍を



おいらせ町は、平成18年3月1日、百石町と下田町の2町合併で誕生し、新たな歴史を刻み始めてから、3月1日で10年を迎えます。

10年前の平成18年3月1日、県南地方特有のヤマセ雪が降りしきる中、おいらせ町は産声をあげました。

この10年を振り返りますと、急速に進行する少子高齢化、平成20年の世界同時不況に端を発した景気の低迷と雇用情勢の悪化、未曾有の国難となった東日本大震災、地方分権の進展など、国・地方を取り巻く社会経済情勢は激動の時代であったと言えます。

このような中であっても、わが町は総合計画に掲げた将来像「奥入瀬川の恵みと笑顔あふれるまち」を目指し、町民の一体感の醸成と、町の均衡ある発展を図りつつ、人の輪、地域の輪、そして、多彩な地域資源を生かした「まちづくり」に取り組んで参りました。

そして、忘れてはならないのは東日本大震災であります。当町にも大津波が沿岸部に押し寄せ、甚大な被害を受けましたが、地域の人たち

はもとより、町内外の多くの方々が、互いに助け合い、支え合って、この苦難に立ち向かい、乗り越えてまいりました。この先においても、英知と強い絆がある限り、あらゆる困難を乗り越えていけるものと信じております。

現在、我が国は、本格的な人口減少社会に突入しており、地方経済や地域社会への影響は大きく、そして深刻に変容しようとしております。地方自治体においては、人口減少の克服と、地域社会の形成維持が最重要課題となっており、地域の実情に合った、総合的かつ戦略的な人口減少の抑止と、定住促進に向けた具体的施策の展開など、地方創生に向けた動きが本格化しております。

当町においても、直面している課題に適時的確に対応すべく、子どもからお年寄りまでの全ての世代が、健康で安心して暮らせる地域社会を実現し、おいらせ町を持続的に発展させ、夢と希望を有する町に築きあげていかなければなりません。

私は、この10周年の節目を契機といたしまして、これまでの10年の歩みを礎に、これからの10年を見据え、次世代へ繋ぐ新たなステージを創り上げていく決意を新たにいたします。

終わりに、全ての町民の皆様、心からの感謝とお礼を申し上げますとともに、皆さま共々、町誕生10周年を祝い、これを契機に、町民の更なる融和が図られ、さらに飛躍、発展するおいらせ町への、一層のご支援とご指導をお願い申し上げます。

平成28年3月1日

おいらせ町長

三村 正太郎

平成18年3月1日

# おいらせ町の誕生



▲平成18年3月1日、小雪の降る中、おいらせ町開庁式で行われたテープカット。合併前の両町議長・町長と、3月1日生まれの町民、袴田蓮さん、小泉絢香さん、今村智矩さんが参列しました



▲南部児童センター「ひまわり館」開館。町内の児童館として4ヶ所目の施設



◀現在も館内には子どもたちの元気な声が響いています

▶おいらせ交番開所。町は平成27年、交通死亡事故ゼロ3年を達成しています



## 平成18年

- 3月 おいらせ町誕生
- 3月 町章制定
- 7月 町の花「さくら」、町の木「いちよう」、町の鳥「はくちょう」制定

## 平成19年

- 6月 町民憲章制定
- 6月 「おいらくん」誕生
- 6月 南部児童センター「ひまわり館」オープン
- 7月 阿光坊古墳群が国史跡に指定される
- 12月 おいらせ交番開所

## 平成20年

- 4月 木内々公園完成



百石町・下田町が平成18年に合併しおいらせ町が誕生



▲7世紀から100基以上の古墳が作られた「阿光坊古墳群」は、その規模が大きなこと、残存状況が良好なことから国の史跡として指定されました。古墳群からは様々な出土物が確認されています



町のイメージキャラクター  
おいらくん

平成19年6月に誕生。  
おいらせ町(OIRASE)の頭文字“O”とおいらせ町に象徴される清冽な水、命の源である“水”をモチーフにして、町民の和を象徴するような丸みのある顔に、水のしずくを組み合わせ、キャラクター化しました。  
ゆるキャラグランプリ2015に出場、全国総合730位。

町スポーツ  
少年団  
設立 10 周年!



# 発展と成長



▲百石漁港が整備され、鮭やホッキ貝など地元水産物の集約化がすすみました



▲民具ふれあい館開館。かつての生活を伝える多くの民具が閲覧可能に



▲地域医療を支えるおいらせ病院のリフォーム。床や壁、照明が一新され、より快適な病院に生まれ変わりました

## 平成 21 年

- 4 月 町自治基本条例施行
- 9 月 八戸圏域定住自立圏形成協定締結
- 11 月 国民健康保険おいらせ病院リフォーム完成

## 平成 22 年

- 6 月 百石漁港供用開始
- 12 月 青い森鉄道開業

## 平成 23 年

- 2 月 百石中学校新校舎完成
- 3 月 おいらせ町景観百選認定
- 3 月 いちょう公園整備完了
- 3 月 東日本大震災

### おいらせ町自治基本条例を制定 町民協働の自治体運営を基本原則に



4 月 阿光坊手づくり古墳館、民具ふれあい館オープン



▲阿光坊手づくり古墳館。有志による古墳のPR  
◀百石中学校に待望の新校舎が完成



▲東日本大震災直後。消防団など多くの関係団体が一致団結し、災害対応にあたりました



下田 F. C. Jr

木内々ミニバス

木内々VBC

下田ベースボールクラブ

木ノ下Suns男子



▲青葉三丁目に開園した青葉公園。憩いの場として、また災害時には避難場所として活用



▲町民が考案し、苦節の末完成したおいらせ音頭の初披露。おいらせ町の魅力をすべて伝えるふるさとの歌が生まれました



▲平成 26 年、おいらせ病院が地域医療確保に重要な役割を果たし、経営の健全性が保たれているとして、総務大臣から表彰されました

## 平成 24 年

- 5月 青葉公園完成
- 7月 おいらせ音頭完成
- 10月 上十三・十和田湖広域  
定住自立圏形成協定締結



## 平成 25 年

- 3月 災害公営住宅完成
- 12月 阿光坊古墳群復元工事了



## 平成 26 年

- 8月 おいらせ病院が総務省から  
「自治体立優良病院」の  
表彰を受ける
- 12月 旧「字向山」の字名変更完了

東日本大震災を経験するも、  
防災と安心・安全のまちづくりへ



▲災害公営住宅が完成、大震災の被災者の新たな生活基盤に

## 大震災を乗り越えて



▲八戸地域広域市町村事務組合おいらせ消防署北分遣所が落成。北部地区の防災拠点に



▲明神山に津波避難タワーが竣工。想定される最大規模の津波対策として整備されました



木ノ下Sun's女子



木ノ下ファイターズ



木ノ下アルビローハ



木ノ下JSCバレーボーイズ



きのしたSSV

# おいらせ町誕生 10 周年記念事業



様々な 10 周年記念の催しが行われました



▲ 1,091 人がエントリーした、第 30 回 いちょうマラソン大会。大会初ゲストランナーは谷川真理さん

◀ 百石高校食物調理科の生徒が開発した「おいらっせ十種野菜健康カレー」



▲ 町内全域でのクリーン活動 ゴミ拾いの奉仕活動を実施



▲ 健康長寿青森県一を目指し、弘前大学の中路重之先生と共に健康宣言を行いました

## 平成 27 年

3 月 おいらせ消防署北分遣所完成

6 月 健康長寿宣言

11 月 町誕生 10 周年記念式典挙行

12 月 津波避難タワー竣工

## 平成 28 年

3 月 町誕生 10 周年を迎える



▲ イオンモール下田で開催された全国将棋まつりの子ども人間将棋



▲ 約 400 人が集まった 10 周年記念式典。おいらせよさこいソープが初披露されました



▲ 下田公園間木堤で行われた植樹祭。美しい里山公園づくりに多くの町民が汗を流しました



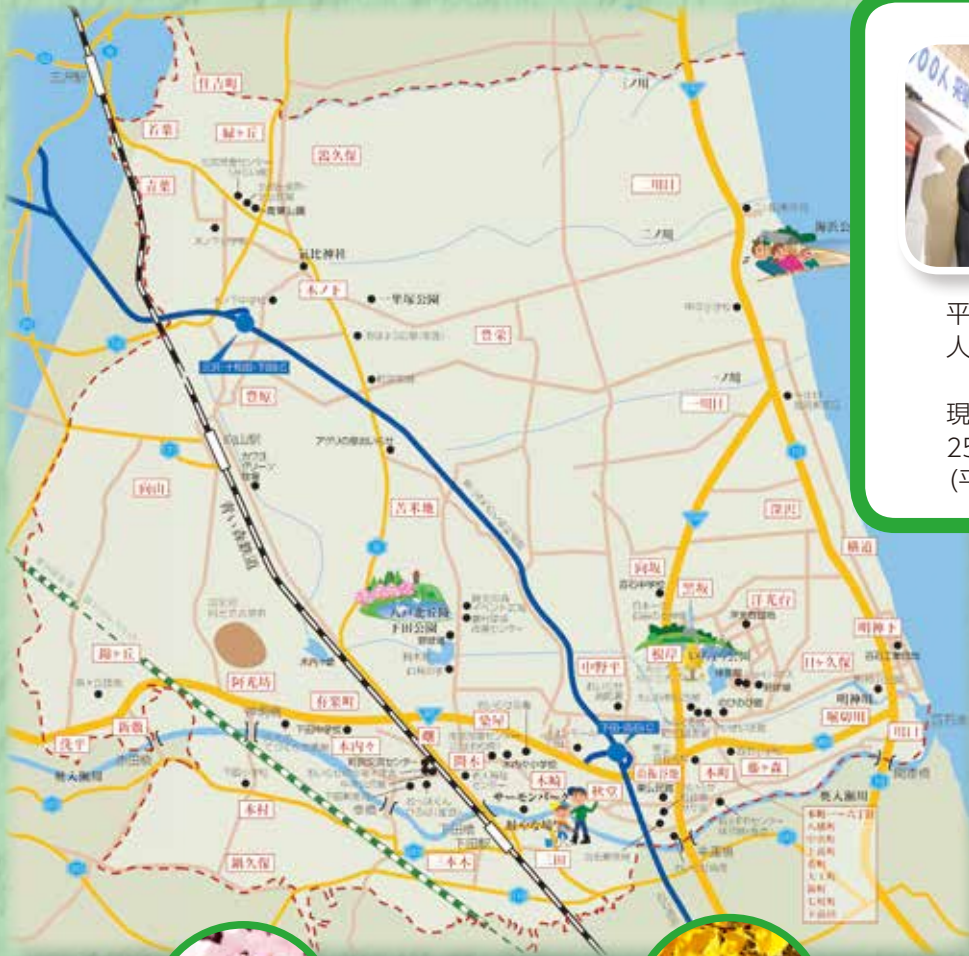
▲ 大人気を博した、日本一のおいらせ鮭まつり名物「鮭のつかみどり」

そして、おいらせ町は次の一歩へ

## おいらせ町町民憲章

私たちは、大海にそそぐ奥入瀬の清流と緑の平野に生まれたおいらせ町民です。  
私たちは、郷土の文化を高め、豊かで活力あふれる町にするため、ここに町民憲章を定めます。

- 一、自然の恵みに感謝し、美しいまちをつくりましょう。
- 一、心と体を鍛え、明るく元気なまちをつくりましょう。
- 一、働く喜びを持ち、豊かなまちをつくりましょう。
- 一、思いやりを大切にし、心ふれあうまちをつくりましょう。
- 一、手を取り合い、安全で住みよいまちをつくりましょう。



平成20年12月、  
人口2万5千人突破。

現在のまちの人口は  
25,263人です。  
(平成28年2月1日現在)

### 町の花 さくら



さくらの花は日本人にとって身近な花であり、いちょう公園・下田公園の満開のさくらは私たちに期待や喜びを与えてくれる。さくらのように花開き、心を豊かにできる町にしたいとの想いをこめたものである。

### 町の木 いちょう



いちょうの木は様々な環境の変化に対応して芽吹く生命力の強い木である。また、根岸の大いちょうは、安産の守り神といわれているため、新しい命を受け、健やかに力強く生きる町民の象徴である。

### 町の鳥 はくちょう



冬の使者として町に飛来し、私たちの心を和ませてくれる白鳥は、家族の絆が強い鳥である。そのはばたく姿は、人々が共に手をたずさえ、大きく飛躍する町を象徴している。

# おいらせ音頭

作詞 永井八郎  
作曲 奥平純代  
作詞作曲補作おいらせ音頭委員会  
編曲 杉田まこと  
振付 下川原和子  
永島加津子

一、おいらせよいとこおいらせの町よ  
あまの山この丘千木とくくおいらせ  
おいらせの雪が水面に浮かび  
おいらせの女も踊りだす  
おいらせ若きも輪になつて  
おいらせ音頭でひと踊り

二、おいらせよいとこ恵みの町よ  
千代舟のいちように願をかけや  
なびく若葉の空の笑顔を  
祝うよ大鼓は王将はわし  
おいらせ若きも輪になつて  
おいらせ音頭でひと踊り

## 未来に輝け おいらせ町

三、おいらせよいとこ総りの町よ  
五穀豊作の縁を山車に  
奥入瀬川に交るよ  
朝日を光りて大漁旗も  
おいらせ若きも輪になつて  
おいらせ音頭でひと踊り

四、おいらせよいとこ精心の町よ  
白鳥飛び交う青空のもと  
おり立つ水辺はやすまの里  
まねく微笑み自由の女神  
おいらせ若きも輪になつて  
おいらせ音頭でひと踊り

五、おいらせよいとこ歴史の町よ  
阿光坊の古墳のひかり  
いななと駒と栄えた牧に  
未来輝けおいらせ町  
おいらせ若きも輪になつて  
おいらせ音頭でひと踊り

書 松林裕子

### 町章

町名の文字そのものを、ひらがなの柔らかさを活かしてデザイン化し、円の部分は町民の協調性を表現しています。

緑は豊かな自然環境と人に優しい田園定住都市のイメージ、青は清流奥入瀬川と力強い太平洋を、赤は住民の活力を象徴しています。

